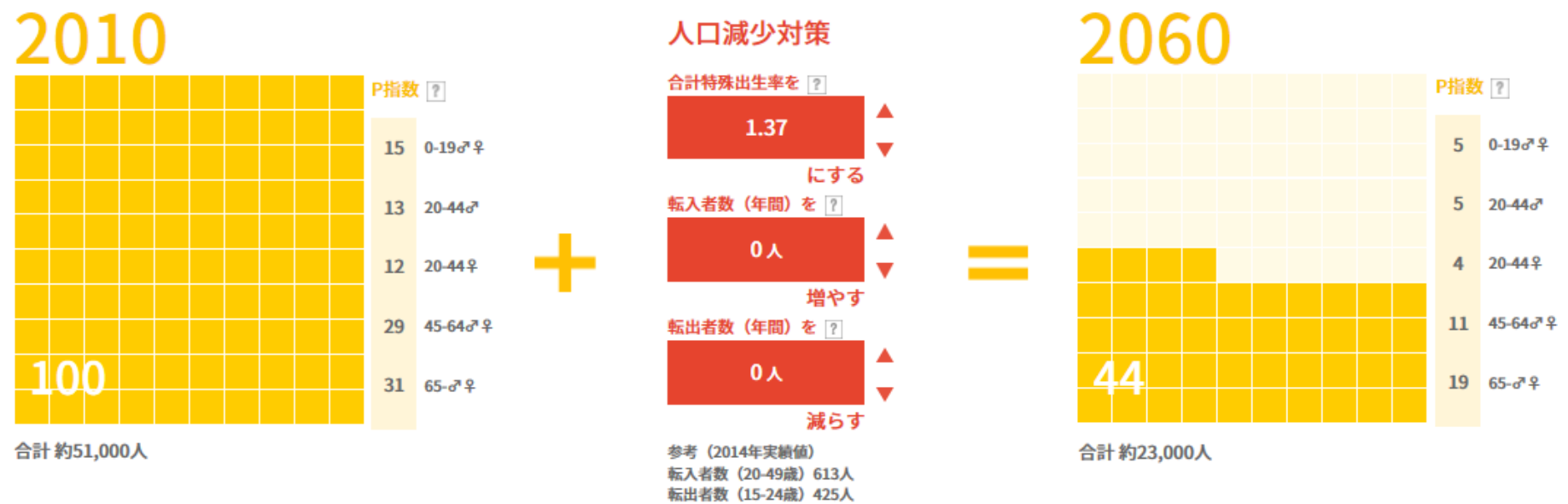


4つの基本戦略に至るまでの説明

平成27年7月27日
氷見市まちひとしごと地方創生推進協議会

- 氷見市の人口は年々減少を続けており、推計上では2060年に半分以下になります

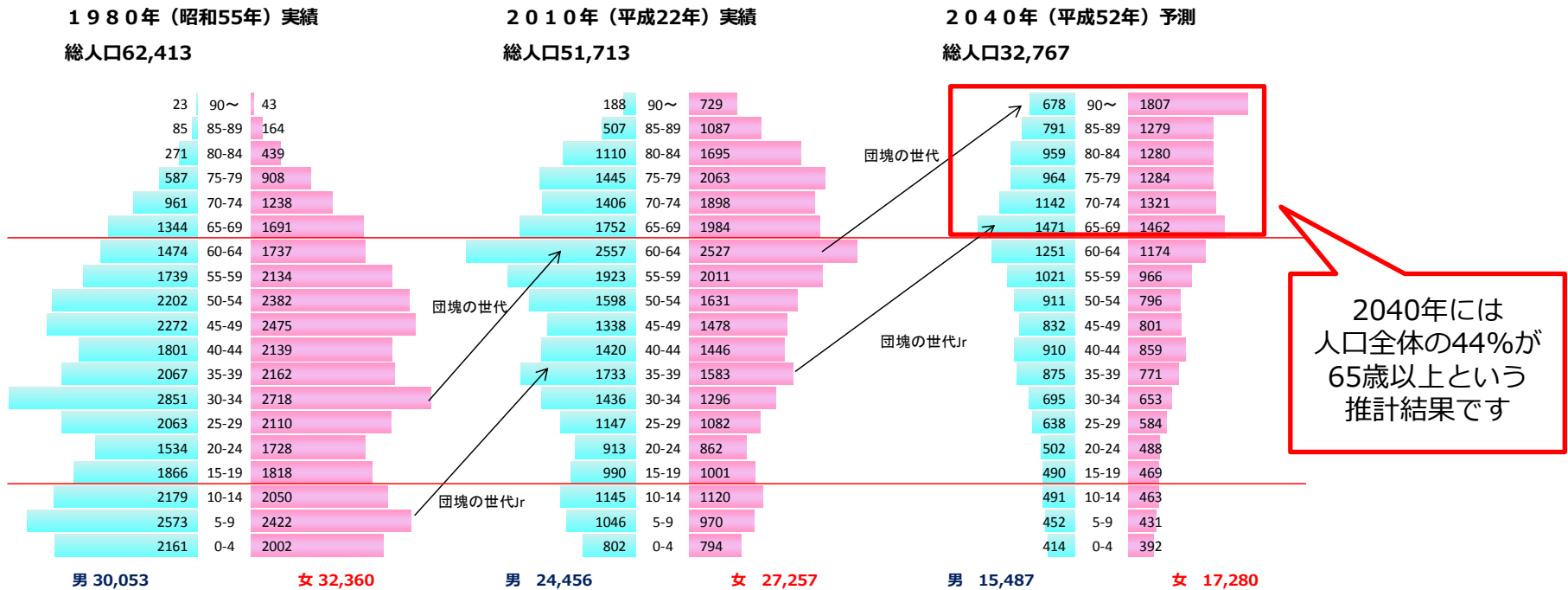


特に人口減少対策をしない場合を想定
出生率＝現状、社会増減＝現状

- 氷見市は年々高齢化が進んでおり、2040年には人口全体の44%が65歳以上という推計結果となっております。将来的に高齢化率が更に向上する推計結果です

氷見市 人口ピラミッドの変化

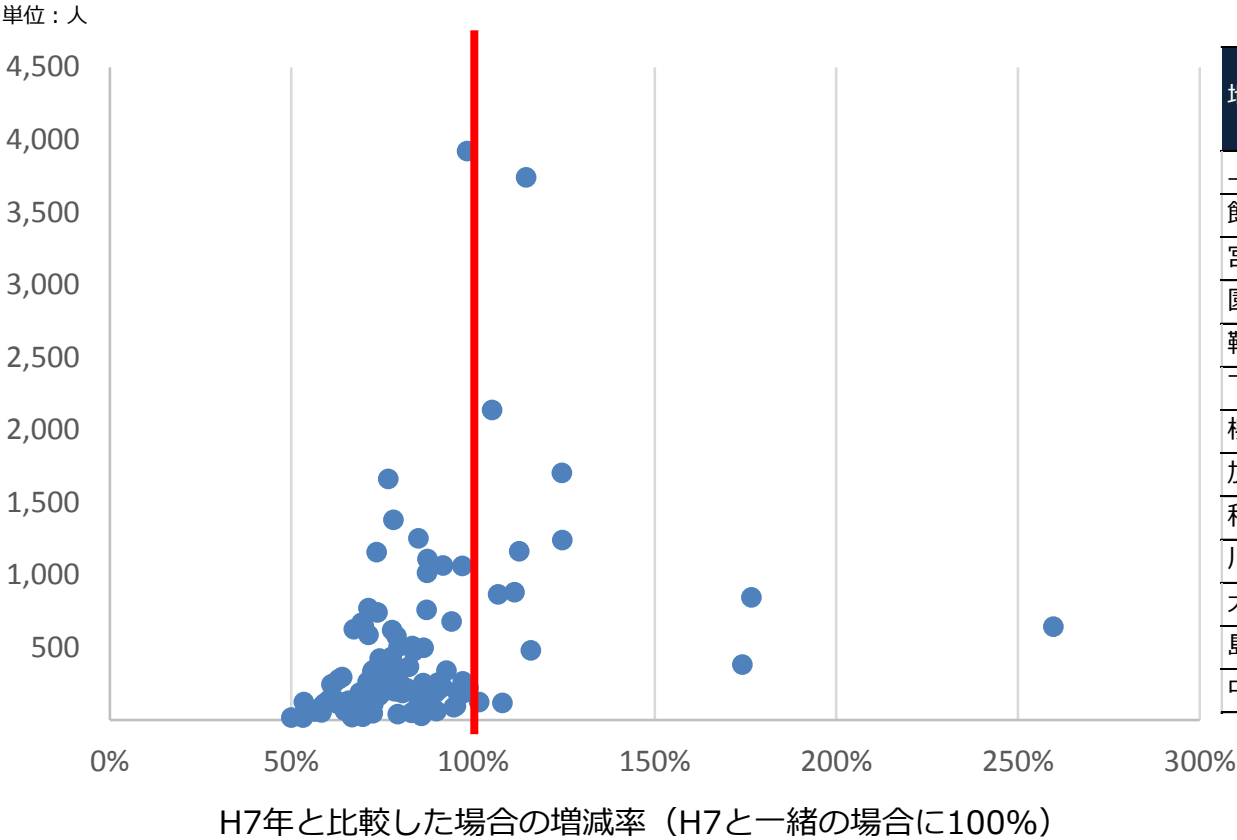
氷見市の1980年、2010年の人口、2040年の推計人口について人口ピラミッドで比較



区分別人口数の変化				区分別人口比率の変化			
	1980年	2010年	2040年		1980年	2010年	2040年
年少人口	13,387	5,877	2,643	年少人口	21.5%	11.3%	8.1%
生産年齢人口	41,272	29,972	15,686	生産年齢人口	66.1%	58.0%	47.9%
老年人口	7,754	15,864	14,438	老年人口	12.4%	30.7%	44.0%
総人口	62,413	51,713	32,767				

- H7年からH22年までの間で、一部の地区を除き、地区内の人口が減少しています
 - 国勢調査では全部で116の字があり、15年で9割の地区内の人口が減少しています

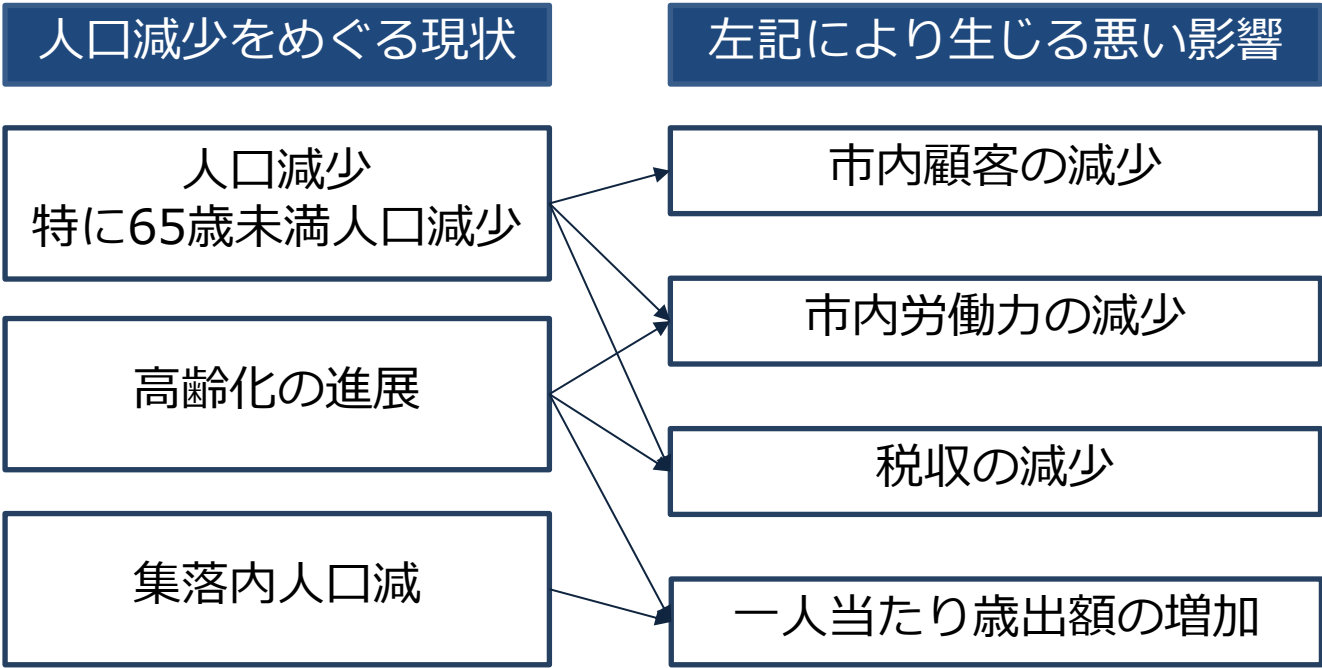
H22年における氷見市内各地区の人口（縦軸）と、
H7年と比較した場合の人口増減率（横軸）



（参考）15年間で
人口が増加した地区

地区	H22総数	H7と比較 した場合の 増減人数	H7と比較 した場合の 増減比率
上泉	644	396	259.7%
飯久保	846	367	176.6%
宮田	383	163	174.1%
園	1,240	244	124.5%
鞍川	1,704	334	124.4%
下田子	481	66	115.9%
柳田	3,742	477	114.6%
加納	1,163	131	112.7%
稲積	883	90	111.3%
川崎	120	9	108.1%
大野	867	56	106.9%
島尾	2,139	106	105.2%
中尾	125	2	101.6%

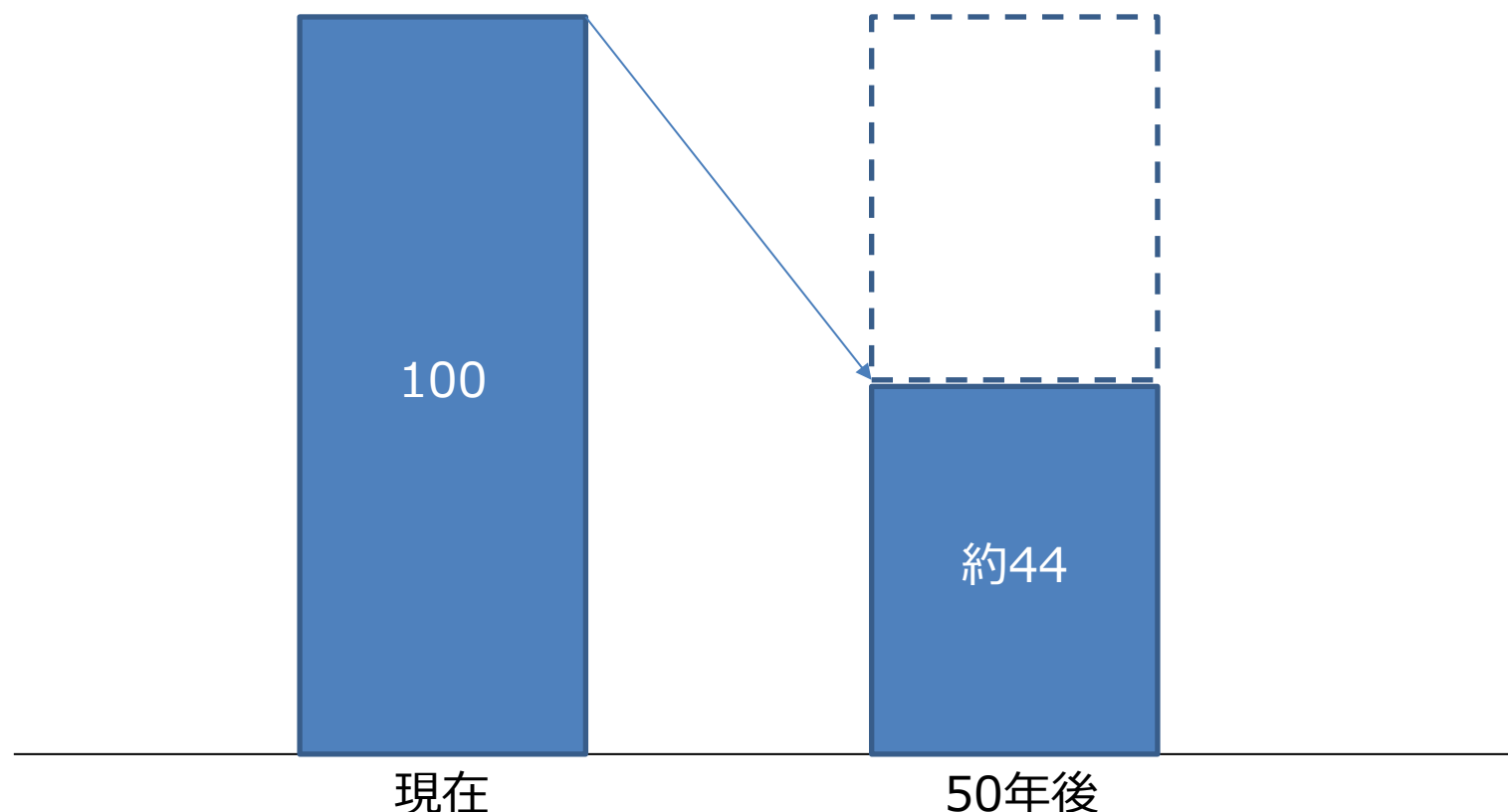
- 人口減少によって、暮らしの維持が難しくなります



以上より、
市内の商売(経済活動)、地域活動、行政サービスの継続が困難になります
→このままでは自立的に生きていくことが難しくなる

- 納税者人口（および地方交付税交付金対象者）が減ることや、土地価格の下落等によって、市の税収が減少すると考えられます
 - 人口と同じ比率で税収が減少すると仮定した場合、2060年の税収が56%程度減ると想定されます

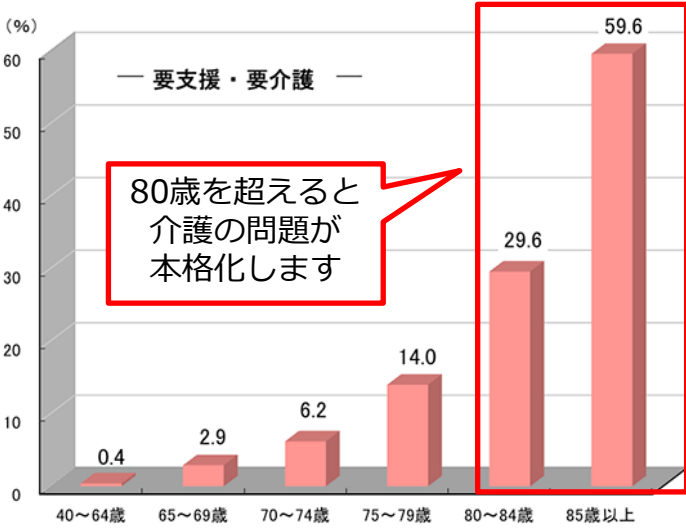
現在の税収を100とし、人口比例で税収が決まる場合の50年後の税収



※P1の人口推計結果を基にイメージ図を作成。現在＝2010年であり、50年後＝2060年の推計である

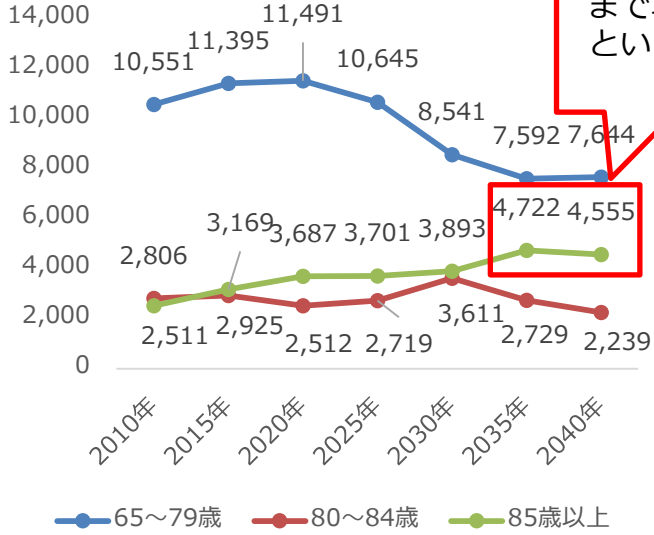
- 高齢者が増加することによって、要介護者等が増加する可能性が向上します。要介護者等が増えると、「医療費が増える」「周囲の人の介護負担が増える」こととなります

年齢別要支援・要介護者の比率



80歳を超えると介護の問題が本格化します

氷見市の人口推計

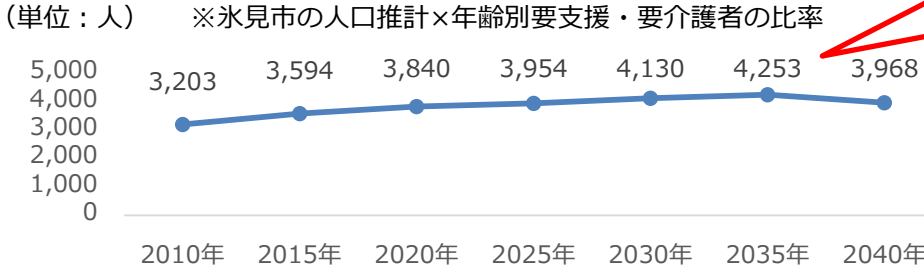


85歳以上の高齢者は2035年まで増え続けるという推計結果です

(出典) 公益財団法人 生命保健文化センターより
元データは厚生労働省「介護給付費実態調査月報 (平成26年7月)」
総務省「人口推計月報 (平成26年7月)」

(出典) 国立社会保障・人口問題研究所の氷見市の人口推計より
グラフ作成

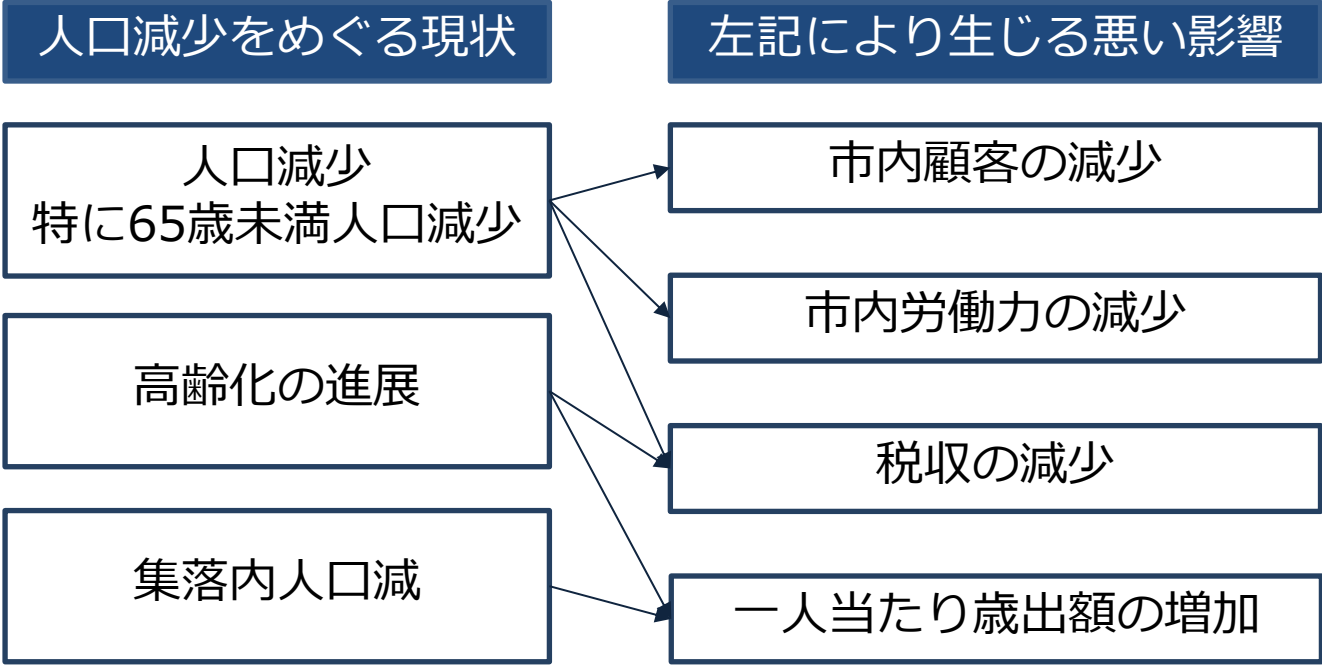
氷見市の要支援・要介護者の推計



要支援・要介護者は理論値を基にすると、2035年まで増え続けます

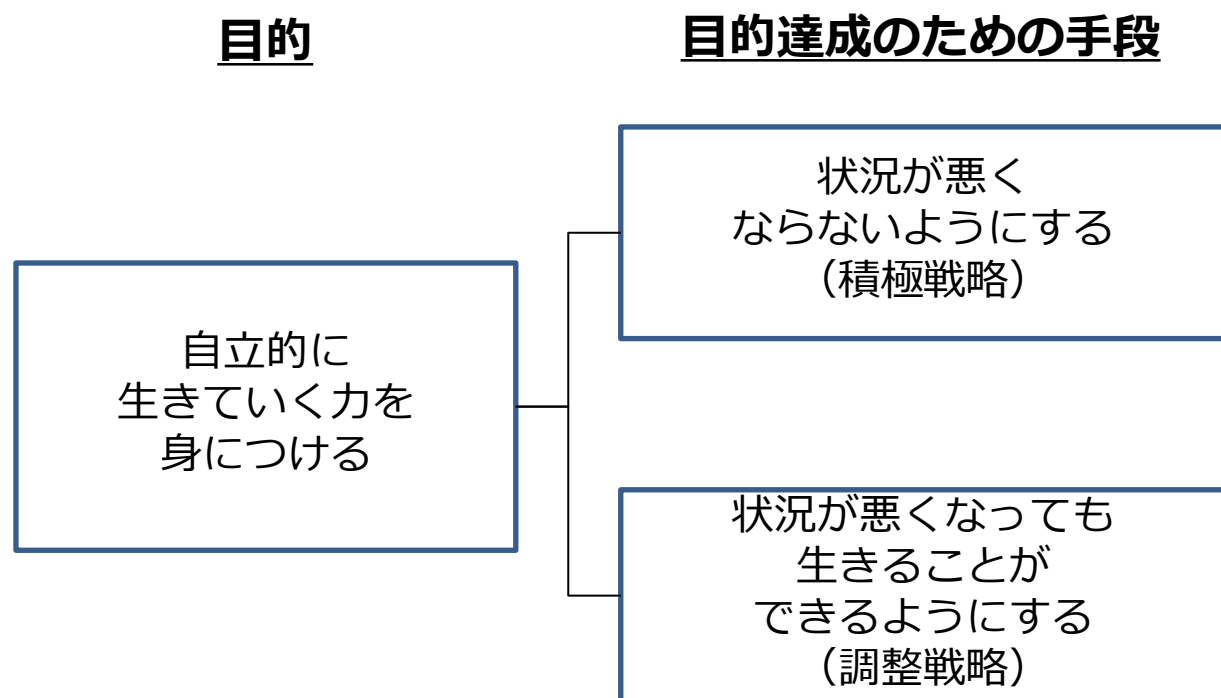
※上記2つの統計から算出した理論値であり、実態ではありません

- 前述までの現状を踏まえ、地方創生戦略では「自立的に生きてゆく力」を備えることを目的とします



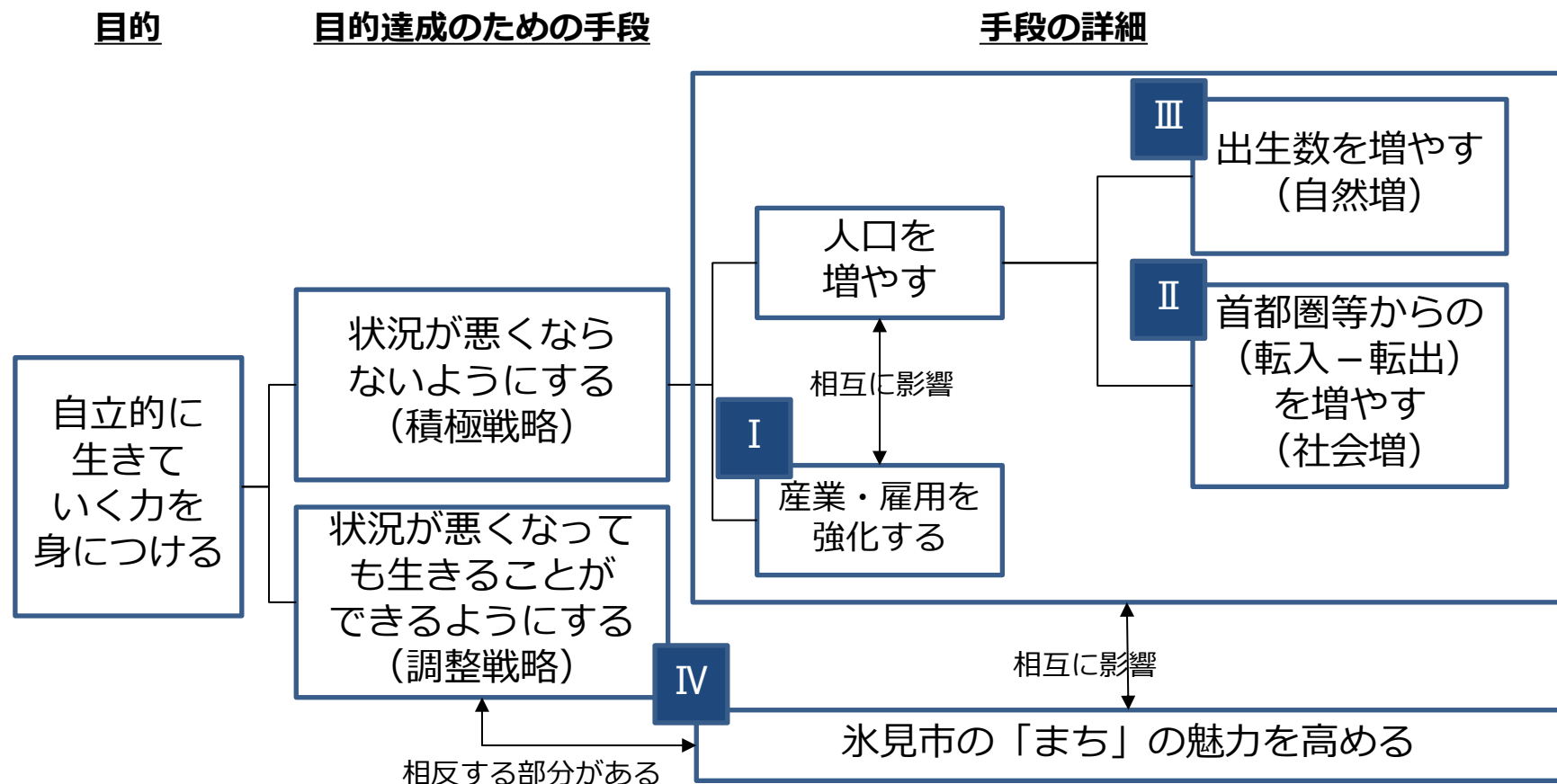
地方創生戦略では、
上記の将来予測に負けず、「自立的に生きてゆく力を備える」
ことを目的とします

- 氷見市での地方創生戦略は、将来起こることに負けず、自立的に生きていく力を身につけることを目的とします
 - そのために、積極戦略と調整戦略の二つの視点から考えてゆきます



氷見市版地方創生戦略の目的を達成する手段

- 氷見市版の地方創生戦略の目的を達成するためには、
 - 「産業・雇用の強化」「人口の増加（人口の自然増、社会増）」と「それらを支えるまちの魅力の増加」を行う必要があります
 - 同時に、氷見市の状況が悪くなっても（税収減、コスト増等となっても）生きてゆけるようなまちづくりを行う必要があります



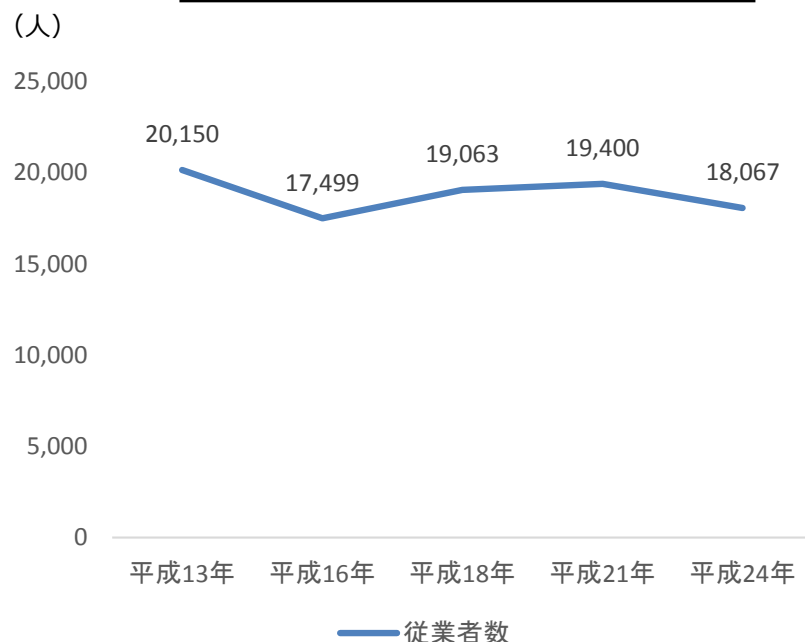
- 前述の考察を踏まえ、氷見市版の地方創生戦略の基本目標は以下 4 点とすることを考えております

	基本目標	説明
基本目標Ⅰ	安定した雇用を創出する	氷見市の特色を活かし、時代の流れに対応しながら安定的な雇用を増やす
基本目標Ⅱ	新しいひとの流れをつくる	「定置網のように回遊する人材を受け止めるまち氷見」を実現する
基本目標Ⅲ	結婚・出産・子育ての希望をかなえる	氷見での結婚・出産・子育てを楽しみ、子どもの笑顔で満ちあふれた家庭を増やす
基本目標Ⅳ	時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する	持続可能なまち機能の開発と、限られた地域資源を効果的に活用した魅力的なまちづくりを実現する

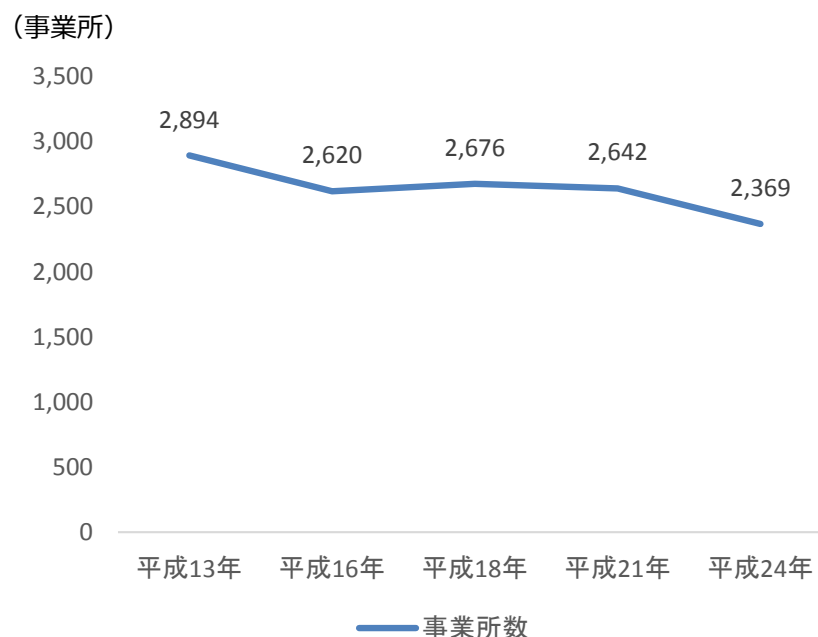
- 氷見市内の事業所・従業者は、平成13年比で減少しています
- 事業所数も減少傾向で、平成21年から平成24年の間に1割以上減少しています

氷見市の事業所数と従業者数の推移

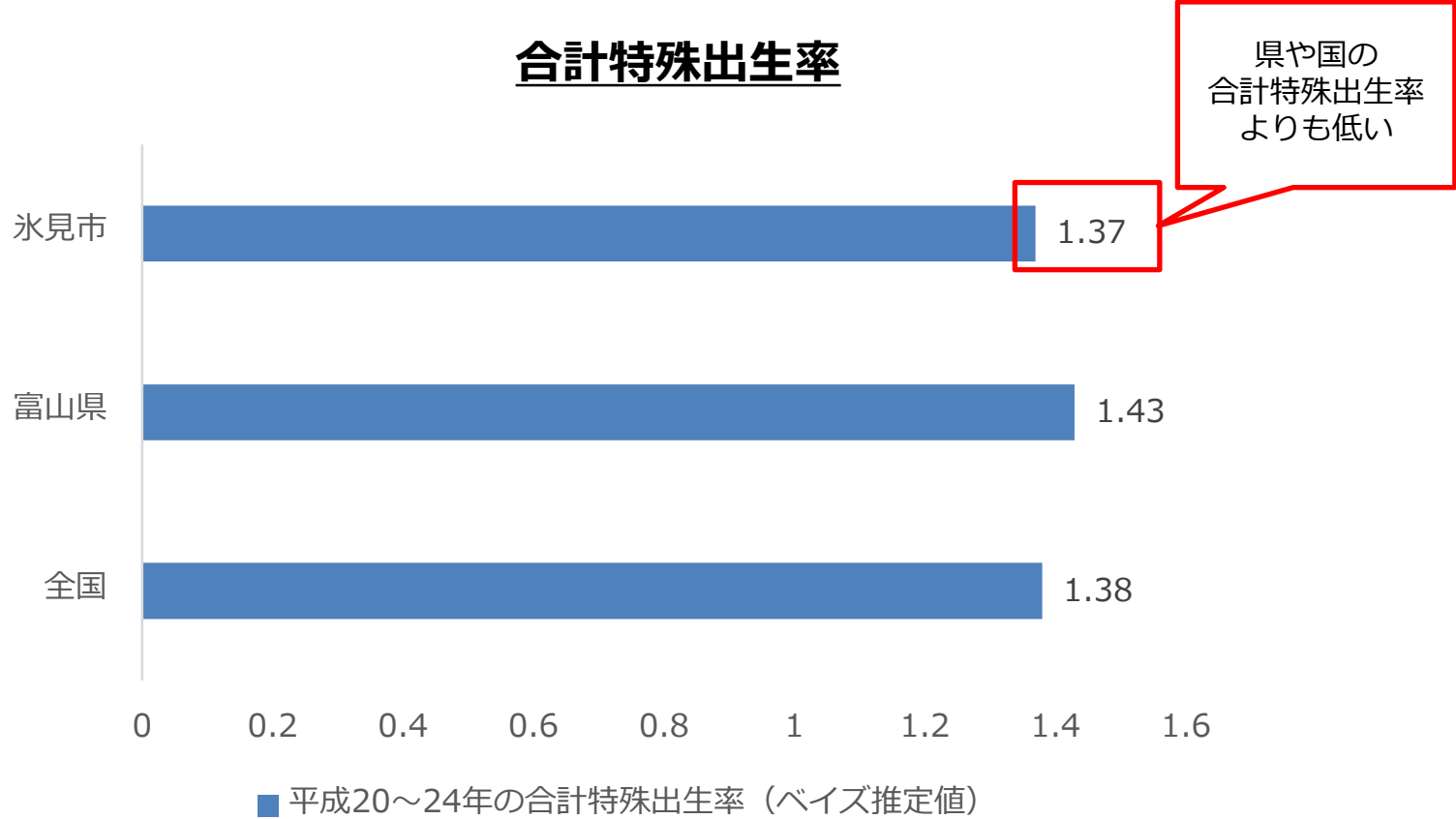
従業者の推移（単位：人）



事業所の推移（単位：事業所）



- 氷見市の合計特殊出生率は、1.37です
 - 合計特殊出生率とは、一人の女性が一生に産む子供の平均数です。氷見市の場合、一人の女性が一生に1.37人の子供を産むという計算になります（人口の維持には合計特殊出生率が約2.1となる必要があります）
 - 氷見市の合計特殊出生率は県の平均や国の平均よりも低いです

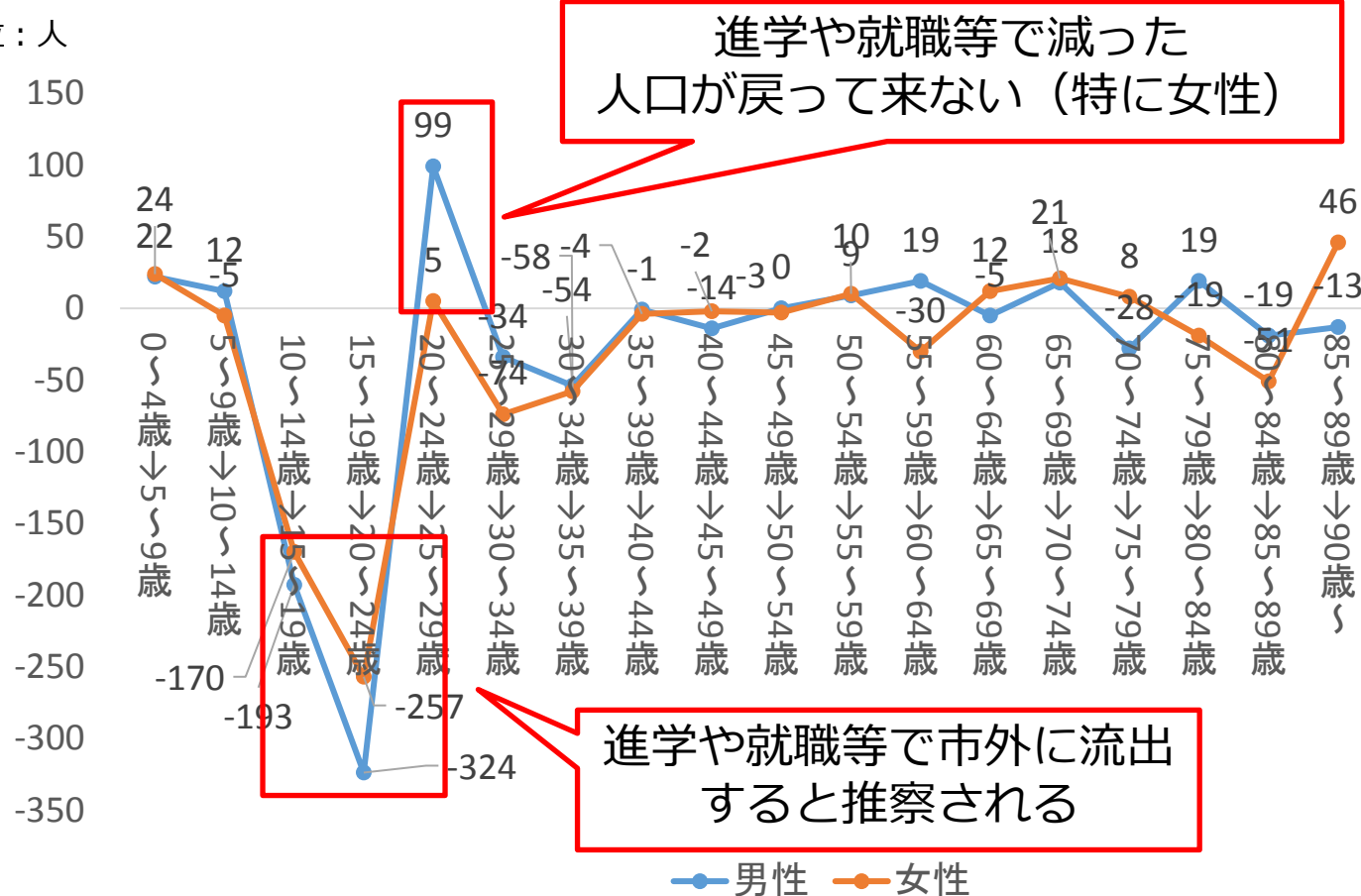


現状における氷見市の社会減の状況

- 氷見市は、人が市外に流出した分をカバーできる人口流入がありません
 - 特に女性の流出が多いです

年齢階層別の社会増減（5年前との人数比較）

単位：人



（出典）国勢調査、住民基本台帳移動報告をresas経由で取得（年齢階級別人口移動分析_市区町村の2005年→2010年値をグラフ化）